［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　2010年5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2693200012
法人名	株式会社ピュアロージュ
事業所名	グループホーム　亀岡陽風荘
所在地 （電話番号）	〒621－0254　京都府亀岡市本梅町東加舎九日田9-6 （電　話）0771-26-0031

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町上ノ口上る梅湊町83－1　ひと・まち交流館　京都1階		
訪問調査日	平成22年4月19日	評価確定日	平成22年6月18日

【情報提供票より】（　平成22年4月15日記入　）

（1）組織概要

開設年月日	平成　21年　4月　20日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	10　人	常勤　7人，兼務　2人，非常勤 1人，常勤換算　6.92

（2）建物概要

建物形態	併設	
建物構造	木造造り	
	2 階建ての	2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	93,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　300,000　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300　円	昼食	500　円
	夕食	450　円	おやつ	150　円
	または1日当たり　1400円			

（4）利用者の概要（　1月　10日現在）

利用者人数		9 名	男性　1 名	女性	8 名
要介護1		4　名	要介護2		4　名
要介護3		1　名	要介護4		0　名
要介護5		0　名	要支援2		2　名
年齢	平均	83.1 歳	最低	70 歳	最高　94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	京都武田病院、坂井歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山の稜線の向こうは大阪府能勢町という農村集落が点在するのどかな場所にある小規模多機能型事業所併設のグループホームである。建設業、特に福祉施設建設からコンサルティング業、滋賀や京都で展開し実際に介護サービスに乗り出した法人の3つめのグループホームである。豊かな老後が利用者家族だけでなく働く職員にもと考え「ピュアロージュ」と名づけられ、法人の協力や地域住民も巻き込んで地元にとけこんだ事業所にしたいと奮闘している。開所から1年、管理者を中心に職員基礎作りを行い、2、30代の若い正職員が多く介護の未経験者もいて不安もあったが、入居者・職員が共同しながら生活しており、食卓には笑顔があふれ良好な関係作りが進んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 今回はじめての外部評価受審である。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 職員には「外部評価」の意義について説明が行われ、管理者が書いた自己評価を職員に目を通してもらい、「難しい」とはいいつつ数項目を記入する職員もいた。自らが取り組んでいるサービスについて有効なアドバイスをもらい次への励みにしたいと意欲的に取り組んでいる。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議には亀岡市高齢福祉課、地域包括の職員、民生委員、家族が参加し開催されている。活動報告のほか、地域行事紹介や事業所行事への地域住民への案内をしてはどうか、との意見が出され地域の運動会には利用者と一緒に参加することになった。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 「ご意見箱」を置いているがこれまでに苦情はない。夏祭りには多くの家族が来られるので、話を聞く機会を設け職員全員と共有できるようにしている。行事案内をし餅つきには多くの家族が参加され家族同士で話し合う機会となっていた。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 町内会に加入し、内覧会にも20名もの人たちが集まった経緯がある。事業所で開催した夏祭りには200枚のチラシ配布を行い、近所の人が数名参加された。社協のふれあいサロンに参加、町内の運動会にも利用者職員と参加の予定である。また、地元のお米を購入し時には取れた野菜を頂くこともある。今後も地域との行き来は活発にしていきたい、関係を深めていきたいとの言葉が管理者から聞かれた。

2. 評価結果(詳細)

(　　部分は重点項目です　)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念「人と共に」「地域と共に」「自然と共に」がパンフレット、契約書、重要事項説明書に書かれ、玄関先に掲示されている。事業所独自の理念についてはこれから作り上げたいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員への法人理念の浸透を採用時から行い、運営者が突然訪問し職員に理念の浸透度を確認している。職員が利用者本位のケアや最期までその人らしい生活の提供を考えながら家庭的な雰囲気を作ることを心がけ、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、内覧会にも20名もの人たちが集まった経緯がある。事業所で開催した夏祭りには200枚のチラシ配布を行い、近所の人が数名参加された。社協のふれあいサロンに参加、町内の運動会にも利用者・職員と参加の予定である。また、地元のお米を購入し時には取れた野菜を頂くこともある。今後も地域との行き来は活発にしていきたい、関係を深めていきたいとの言葉が管理者から聞かれた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員には「外部評価」の意義について説明が行われ、管理者が書いた自己評価を職員に目を通してもらい、「難しい」とはいいつつ数項目を記入する職員もいた。自らが取り組んでいるサービスについて有効なアドバイスをもらい次への励みにしたいと取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には亀岡市高齢福祉課、地域包括の職員、民生委員、家族が参加し開催されている。活動報告のほか、地域行事紹介や事業所行事への地域住民への案内をしてはどうか、との意見が出され地域の運動会には利用者と一緒に参加することになった。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小規模多機能併設事業所公募でできた事業所でオープン時には市から見学があった。運営推進会議には市職員が参加している。地域に向けては介護相談をしていることを説明しているが、行政と連携した施策はできていない。	○	行政と連携し、認知症の介護情報や相談会などを実施したり、地域密着型サービス理解と啓発を住民向けに発信することを期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は3日に1回から少ない方でも3カ月1回は訪問がありその都度報告し、電話での連絡をこまめにされている。「陽風荘新聞」を発行するとともに、毎月担当職員が利用者の様子を個別に手紙にし、写真を添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を置いているがこれまでに苦情はない。夏祭りには多くの家族が来られるので、話を聞く機会を設け職員全員と共有できるようにしている。行事案内をし餅つきには多くの家族が参加され家族同士で話し合う機会となっていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人は人材育成の観点から人事交流は必要と考えている。利用者との関わりにおいては馴染みの関係を壊さないよう、異動は最小限にとどめている。地元から職員を採用している。異動については広報誌に掲載したり利用者にダメージを与えない配慮をし、説明している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所立ち上げ時には法人別事業所で研修をし、事業所内外でグループホームや小規模多機能とは、認知症について、ターミナルや感染症について学んでいる。報告書記入と共に伝達研修が行われ、資格取得については勉強会で支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し管理者・職員交流会に交代で参加している。京都府北部の地域密着型サービス事業所の集まりにも参加し、法人以外の事業所見学を通じてサービス向上に取り組むことに努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用はないが、入居希望者は家族とともに見学し契約等に関する説明を受けたあとに利用を決めている。入居前の生活を聞き取り、他の利用者との関係性に配慮しながらグループホームでの生活になじんでもらえるように、会話を十分にし介助に努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は畑仕事や家事全般、手作業などの仕事や生活に関わる話を聞き、利用者に教わることが多々あり、日々新しい発見がある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたっては、居宅ケアマネージャーの情報や医療情報等が把握されているが、グループホーム利用にあたっての独自情報が少ない。利用者の言った一言が「名言集」に記録され利用者本人を理解しようと努めている。	○	職員は利用者の生活歴や趣味などを日々の会話で聞き取っているが、介護計画は身体的な介護中心で、生活歴の聞き取りが具体的に介護計画に生かされていることが少ない。記録に落とし込み、情報共有と介護計画に生かすことを期待したい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用開始にあたりケアマネージャーが介護計画を暫定で作りその後は担当職員が他の職員とも検討し3ヶ月ごとに作成している。職員会議やケア会議での話し合い、利用者家族の意向を聞き取っているが記録としてまとめられていない。	○	職員会議やケア会議、利用者や家族との話の中で意見聴取されているが、介護計画として集約されていない。記録をまとめることが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個人記録は日々の行動記録が中心で介護計画に沿った記録が少ない。モニタリングはケアマネージャーによって1ヶ月ごとになされ、記録に残されている。介護計画は状態変化があれば見直されるが、再アセスメントがない。	○	介護計画を実施したかどうか、その時の利用者の様子や発言、満足度などの観察記録を残し、できなかったときは「なぜできなかったのか」を考え、記録することが求められる。状態変化時には再アセスメントをすることが求められる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	階下の小規模多機能事業所の利用者とレクリエーションや行事を通じた交流や法人社員も一緒に行う夏祭りの行事は利用者にとっても楽しみとなっている。訪問美容が月1回来所し喜ばれている。近所の人から「遠距離介護について」の相談を受けたことがあるが、今後も広報誌を通して介護相談に応じることができることを地域に向けてアピールしたいと考えている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院は、京都武田病院である。2週間に1度往診があり歯科医の往診もある。かかりつけ医受診は家族が行っているが対応できない場合は同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	訪問看護ステーションと連携し、「重度化した場合における対応に係る指針」を作り家族などに説明・配布している。ケアマネージャーがターミナルの研修をうけ職員に伝達講習をしている。職員にも「最期までみる」という意識が生まれている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレや食事のときなどの声かけは利用者を傷つけない、十分に配慮した対応を心がけている。不愉快な言葉や態度になっていないか会議などで振り返りをしている。居室は最初から鍵がない構造になっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、起床が早い人は先に食事をしたり、入浴もしまい風呂に入る習慣のあった人に対応している。夜間起きてくる人には話を聞き、その人のペースや習慣で支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	すべての職員が順番に1週間ごとに献立を作っているが、利用者の意見も取り入れている。季節感が出るように急に変更することもある。調理やおやつ作り、味付けなど職員とともに準備している。外食のときは利用者が食べたいものを食べてもらうようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴でき夜も入浴できる場合もある。同性介助で一人で入りたいと希望されるときはそっと見守りするなど、ゆっくりと入浴できるようにしている。グループホームのお風呂になかなか入れなかった人には、職員と「ガレリア亀岡」の大浴場にいって一緒に入浴したこともあった。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物を干したり、調理や下膳や食器拭きなどの家事をされたり、家庭菜園の植え付けや世話をする利用者、花を生ける人もいる。1階の小規模多機能のボール遊びなどのレクリエーションを楽しみにしている人もいる。食事の時に挨拶する人もある。喫茶店へコーヒーやパフェを食べにいくことを楽しみ・気晴らしにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごと長谷川への花見やコスモス園、千代川から出雲神社の紅葉狩、篠山へのドライブなどのほか、近所への散歩や喫茶店に行く習慣のある人は一人であるいは誘い合って出かけている。土日の買物には利用者と一緒に出かけている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の門扉は開け放たれエレベーターや玄関の鍵はかけられていない。非常口の鍵もすぐに開けられるようにとわかるところにかけてある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルがあり消防訓練は消防署にきてもらい実施した。防火責任者、消火器、煙や火災報知器、通報装置は整い、備蓄としては水とオムツが準備されている。近所に住んでいる職員もいるが、グループホームは2階にあり避難経路は急な階段となっており今後は地域との協力体制を構築するように考えている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の食事量や水分量も記録され、好き嫌いや便秘を防ぐ意味で副食を個別に変更したりと工夫されている。献立は利用者の意見も聞いて、職員が1週間分立てているが簡単なカロリー計算をすることと、栄養バランスのチェックがなされていない。	○	カロリー計算をし、献立の栄養バランスなどを定期的に点検・アドバイスを受け記録に残し、献立にいかされる工夫を期待する。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーターで上がった2階がグループホームとなっており、引き戸を開けると奥に和室と一体として使用できるリビング全体が見渡せる。テレビの前に応接セットも置かれ寛げる場所も用意されている。リビングは広く明るいが採光は眩しすぎるときはレースのカーテンで調整している。季節の花を飾り、利用者のちぎり絵や、写真が飾られてある。	○	玄関からリビング全体が一目で見渡せてしまうので、目隠しのための暖簾などで工夫することが求められる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は大きなクローゼットのあるフローリングという造りで収納されているのか多少殺風景な居室もあるが、畳に布団、畳にベッドと各々使いやすいように変更している人もいる。花を飾り挿し木を楽しむ人や、使い慣れたたんすや鏡台を持ち込んでいる人、折り紙作品を並べてそれぞれの居室にされている。		